

地学と切手



カナダの地学関係
国際会議記念切手

P. Q.

一昨年の夏はカナダのモントリオールとオタワで地学関係の学会が4つ 一万国地質学会議 国際地理学会議 国際地図学会議 国際写真測量学会—相次いで開催された。これを記念して多色刷4種1組の記念切手が8月2日に発行されている。これら4つの学会について①場所および期間 ②共催学会 ③参加人員 ④日本人参加者 ⑤分科会 ⑥巡検 ⑦次回開催地 ⑧その他に分けて記述する。どの切手がどの学会を示すかはそれぞれ判定願いたい。

第24回万国地質学会議 ①モントリオール(8月21日～30日) ②第4回国際地質学連合(IUGS) 第8回国際鉱物学連合(IMA) 第9回国際古生物学連合 ③101カ国 3,700人 ④小林 勇 八木健三 渡辺武男ら37人 ⑤分科会17(論文数840) コンgress・シンポジウム2(25) 討論会16(200) ⑥108コース ⑦1976シドニー 1980年はIGC 100年を記念してパリらしい ⑧恒例のジオラマでは 地質調査所も1区劃を持って 最新の地質図を展示した。一般学術講演の分科会には惑星学(論文数52) コンピューター地質学(26) 地学教育(20)などが目立つ。コンgress・シンポジウムは 地学と人間生活の環境 開発途上国への地学的援助の2題がえらばれた。討論会には実験岩石学とグローバルテクトニクス プレートテクトニクスの機構などがあり 関心を集めた。問題点としては会議の規模の巨大化 主催国の財政的負担の増大 印刷物の性格 中国問題などがある。

より詳しい内容は 地質学雑誌 1973年2月号 地質ニュース 225号にのせられている。

第22回国際地理学会議 ①モントリオール(8月10日～17日) オタワ(8月19日) ②国際地図学会議 ③2,800人 ④山本荘毅 田中 薫ら50人 ⑤13 ⑥極北から西部山岳へかけて15の現地討議 ⑦1976年モスクワ ⑧国際地理学会議は次の国際地図学会議とは連係関係にある。また この会議は1871年に国際地理学連合(IGU) 第1回がアントワープで開かれたため 100年式典が催された。なお木内信蔵が副会長の1人に選出された。

第6回国際地図学会議 ①モントリオール(8月15日～19日) オタワ(8月20日～25日) ②国際地理学連合 ③30ヵ国 400人 ④高崎正義 野村正七ら 論文3 地図11点 ⑦1976年モスクワ ⑧地図作製 利用に関するオートメーションの課題が急速に実用化しつつあることと 都市計画 地域計画のためどのような地図を作製し活用するかが 世界の関心事であるとのことである。なお 野村正七が副会長の1人に選出された。

第12回国際写真測量学会 ①オタワ 7月24日～8月4日 ④佐々保雄 大島太市 丸安隆和ら ⑤分科会7 ⑦1976年ヘルシンキ ⑧中心の話題はリモートセンシングと作業の自動化であり 従来は可視域からせいぜい近赤外の写真を使つての判読だったのが マルチスペクトルから熱線写真 レーダー写真がとり入れられ とにかく地上にあるもの 地下に含まれているもの 何でもかくすものがなくなったという印象を出席者の1人は述べている。丸安隆和が2名の理事の1人に選ばれた。はじめてアジアから選ばれた事実は 世界の日本に対するこの分野における期待を示すものであろう。